

# 取扱説明書

## 赤外線式スポット型感知器（試験機能付） FDCJ003-D-X



このたびは、当社の製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。この商品は消防法の規格に基づく各種の試験に合格した国家検定品です。

**注意** ご使用の前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。  
正しくお使いいただくために、内容をよく理解したうえでご使用ください。

- この取扱説明書はいつでも使用できるところに保管して下さい。
- この製品は定期的な保守点検を必ず行ってください。

### 能美防災株式会社

## 1. ご使用の前に

### ●機能

本感知器は物が燃焼する時に発する赤外線を検知して、受信機に火災信号を送り、感知器の確認灯が赤く点灯します。

### ●主な用途

本感知器は、次のような場所に適しています。

- (1) デパート・スーパーの売り場やトイレスなど放火の危険性のある場所。
- (2) 映画館、劇場、アトリウム、格納庫などの高天井を有する建物。
- (3) 工場など換気流、外気の流入のある建物で、他の種別の感知器では有効に火災感知できないおそれのあるところ。

## 2. 本書の表記

### 1 - 1. 警告表示について

警告表示は、警告文と警告レベルを示す記号の組合せで表示されます。

#### ■ 警告文

危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをした場合に生じるおそれがある内容を、「警告」、「注意」の2つに区分しています。

**警告** 取り扱いを誤った場合、使用者が重傷や傷害を負うか、防災機能の一部に重大な悪影響を及ぼすおそれがあることを示しています。

**注意** 取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負うか、防災機能に悪影響を及ぼすおそれがあることを示しています。また、防災機能を長期にわたって有効に活用する上で、ぜひ守ってほしい事項について示しています。

#### ■ 記号

**△** 警告・注意を促す内容があることを示しています。

**○** 禁止内容を示しています。

**!** 行為を強制したり、指示したりする内容を示しています。

### 1 - 2. 本文中の表記について

自動火災報知設備を施工、保守点検、修理する業者を**保守点検契約先**、また、実際に施工、保守点検、修理する人を**保守点検者**と表記しています。

## 3. 仕様

種別	赤外線式スポット型感知器（試験機能付）
国検型式番号	感第26~6号
定格電圧・電流	DC24V, 50mA
使用温度範囲	-10°C ~ +50°C (結露なきこと)
接続可能機器	当社 進P/II/III/IVシリーズシステム用受信機 P-AT感知器用中継器 ※進PIV伝送には対応していません
最大接続個数	20個／回線
主材	[本体、ベース] : 難燃性樹脂
アドレス設定器 (別売品)	FZAJ004-PまたはFZAJ001-P ※FZAJ001-Pはアドレス30までの確認・設定が可能

●この製品の外観および仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

## 4. 設置上の注意

- (1) 太陽光が直接受光部に入らないような位置に配置してください。
- (2) 感知器受光部の直近の視野を発熱体(ランプ光源など)が移動するような位置に設置しないでください。火災以外で作動する可能性があります。
- (3) 実際に取り付けける場所の見通しを確認し、感知器の視野角内に障害物がないことを確認してください。
- (4) 壁面に設置する場合は確認灯を上にしてください。



- (5) 感知器の前に透明のアクリル板やガラスがある場所に設置しないでください。火災の時に作動しない原因となります。
- (6) 非防水構造のため、水のかかる場所や結露する環境に設置しないでください。故障の可能性があります。

**警告** 機器を分解・改造しないでください。  
 感電や機器の故障・発火の原因となります。

**警告** 感知器の清掃などの点検作業は、感知器の直近で行います。  
 点検を安全に行うために、必ず足場を確保してください。

**注意** 自動火災報知設備の保守点検には専門的な知識と技術を必要とするため、消防法では資格制度を設けて、点検有資格者が行うことと定めています。保守点検契約先と契約を結び、有資格者(甲種・乙種消防設備士、消防設備点検資格者)による保守点検を実施してください。

## 5. 感知器の接続方法

- (1) 感知器ベースは露出型を使用してください。
- (2) 本感知器は、感知器の作動に伴い、受信機に信号を送るとともに、室外表示灯を接続することで、室外で感知器の作動を確認することができます。
- (3) 本感知器と受信機間の外線接続および他の室外表示灯との外線接続は図1を参照してください。感知器のXL1(-)、XL2(+)端子は有極性のため、複数の室外表示灯回路付感知器を接続する場合は極性を合わせてください。
- (4) 室外表示灯はFL-L061型シリーズを使用してください。
- (5) 本感知器はアドレス表示機能を有しているので、アドレス設定器(「3. 仕様」を参照)を用いてアドレスを設定してください。1~60までのアドレスを設定できます。

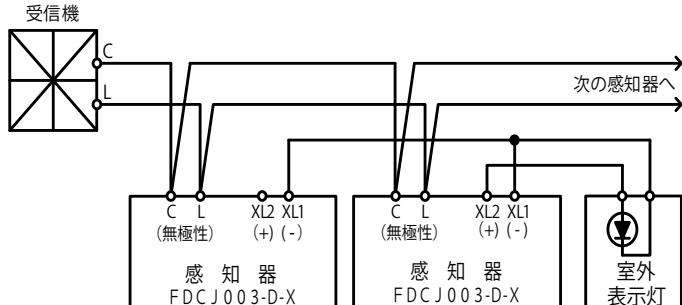


図1 結線図〔室外表示灯を使用する場合〕

## 6. 監視距離と視野角

本感知器は、視野角ごとに監視距離が異なり、また感知器中心軸の両側合わせて100度の円錐状の視野を有します。従って監視範囲は図2、図3の通り円錐の先端にほぼ半球を加えた形となります。

本感知器の公称監視距離を表1に示します。設置される時は表1に従って、床面から1.2mまでの空間の各部分から感知器までの距離が公称監視距離の範囲内にあり、また視野角度が感知器の中心軸から50度以内に入るように設置してください。

監視範囲例を図4-1、図4-2に示します。

- 注意 **!** 視野角は必ず確認し、未監視範囲を生じないように注意してください。  
不適切に設置した場合は、火災の時に作動しない恐れがあります。

## 7. 自動試験機能

感知器の「窓の汚れ」と「火災検出機能」を定期的に監視しています。「窓の汚れ」が原因で感知器が受信機に「出力値異常を送信した場合は、感知器の中央部にある「受光窓」と「試験窓」に2ヶ所の窓を清掃してください。

清掃しても「出力値異常」になる場合は感知器を交換してください。



- 注意 **!** ベンジン、シンナーなどの溶剤、研磨剤を含むクリーナーなどは使わないでください。  
本体の変色、変形などの原因となります。

- 注意 **!** 清掃するときは必ず感知器を取り外し、乾いた柔らかい布で拭いてください。取付けた状態で清掃すると感知器が作動する場合があります。

表1 監視距離

感知器中心軸からの視野角	0°	5°	10°	15°	20°	25°	30°	35°	40°	45°	50°
公称監視距離(m)	20	20	20	20	19	19	18	17	16	15	13

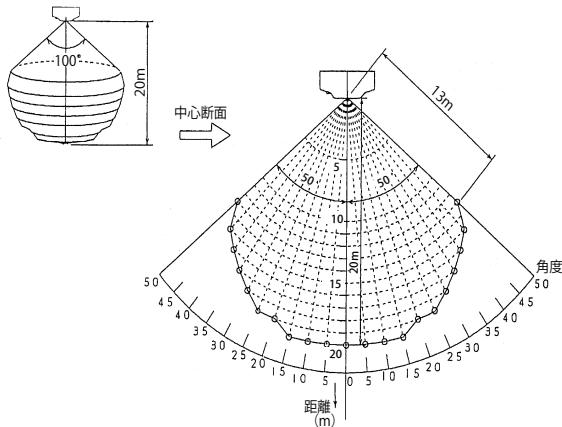


図2 FDCJ003-D-X型の監視範囲

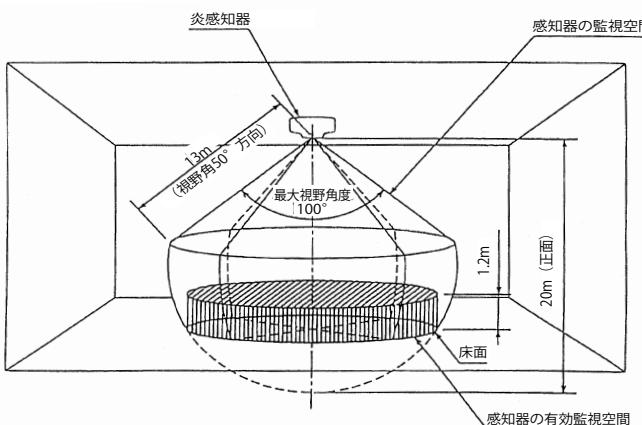


図3 FDCJ003-D-X型の立体監視範囲

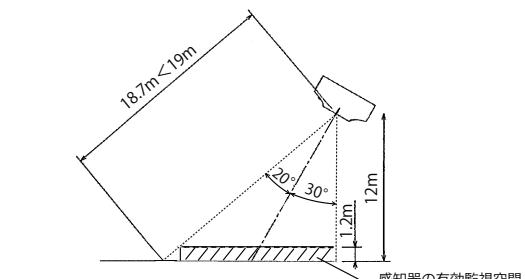


図4-1 炎感知器の監視範囲例①  
(取付け高さ12m、自在取付金具使用)

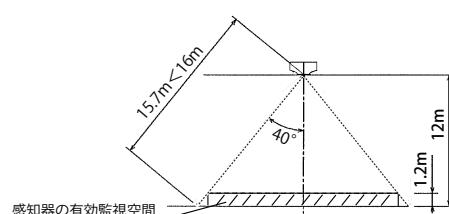


図4-2 炎感知器の監視範囲例②  
(取付け高さ12m、天井面取付け)

※上記以外の取付け高さ、取付け角度に対しての詳細な監視範囲につきましては当社までお問い合わせください。

**NOHMI** 能美防災株式会社

本社 〒102-8277 東京都千代田区九段南 4-7-3  
URL <http://www.nohmi.co.jp/>